

B-21 ワイシャツの洗たくに関するアンケート調査報告(その2)

お茶女大家政 ○ 田野辺瑤子, 林雅子, 矢部章彦, 友の会・堀志津

〈目的〉ワイシャツの取り扱いについて行なった全国的規模のアンケート結果につき、今回は主として、地方別、取り扱い者の年齢別、取り扱い方と撥品となる原因との関連に焦点をあててデータを整理してみた。

〈方法〉前報で述べたように、昭和44年4月～5月に至る期間 全国9ブロック、総数3090名の主として一般家庭の主婦(友の会メンバーを含む)を対象に、繊維製品消費科学会フリーニング研究会(関東)が、テトロン及びその混紡ワイシャツの洗たくの仕方を中心に、24項目につき質問し、電子計算機 O K I M I N I T A C 7 0 0 0 により調査結果を整理した。

〈結果〉手洗りと洗たく機洗いの別、下洗いの有無、部分的ヨゴレの除去方法、使用する水の種類、しぼり方、のりつけ・アイロシカケの有無に関しては、取り扱い者の年齢によりかなりの特徴が見られる。全般的に見て、若年層ほどテトロン及びその混紡ワイシャツ使用者が多く、水道水を使い、洗たく機・脱水機を利用し、のりつけ・アイロシカケなしに着用している傾向にある。即ち *wash and wear* 性を最大限に活用している。高年齢層では、洗り方がよく前後の操作の仕方に各家庭で特色ある取り扱い方ととっているようである。

取り扱い方と撥品となる原因との間には余りはっきりした関連は見られなかった。

干場、使用水、しぼり方等に関して地方別による特色があらわれており、興味深い。